



TITLE:

番所崎、特に"北浜"(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた魚類

AUTHOR(S):

久保田, 信; 檜山, 嘉郎; 田名瀬, 英朋

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 番所崎、特に"北浜"(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた魚類. くろしお 2003, 22: 31-33

ISSUE DATE:

2003

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188194>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

番所崎、特に“北浜”(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた魚類

久保田 信*・榎山嘉郎*・田名瀬英朋*

Shin KUBOTA, Yoshiro KASHIYAMA and Hidetomo TANASE : Fish washed ashore
on "Kitahama" Beach, Banshozaki Point, Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

和歌山県白浜町番所崎周辺の海岸は、岩礁や砂浜が交互に並ぶ複雑な地形で、田辺湾における魚類の観察では多様な種が記録されている(荒賀・田名瀬, 1966)。それらの魚種のうち食用魚は、老衰あるいは何らかの事故などの理由で死亡したとしても、台風時や大時化時に遊泳力や水圧変化に弱いものでなければ事故死を免れるので(御前, 1985 ; 御前, 1994)、寒波による大量凍死を除き、番所崎の海岸に打ち上げられることは少ない(ARAGA and TANASE 1966, 1968 ; 田名瀬・榎山, 1991)。

ところが、ハコフグ類やフグ類は、海岸に比較的多くの個体が頻繁に打ち上がっている。この理由は、ハコフグ類は遊泳力が弱いので多少の時化でも岩礁にぶつかるなどの原因で衰弱・死亡して打ち上げられることや、別の理由として、死亡後も海中で他の生物に体全体が食われてしまうことが少ないからであろう。とりわけハコフグ類は、田辺湾周辺地域で普通に見られるトビ、カラス、カモメ類やウミウ類などの鳥類によっても食されることは少ないと思われ、海岸に打ち上げられても腹部に穴を開けられて内臓が食されているものの、体全体が骨枝で包まれているため壊れずによく残っている(図1)。同様に、体表の堅いタツノオトシゴ類やウミテング類も、死亡後も打ち上げ後も、他の生物に食われることなく、原形を保って発見される。

一方、この海域には釣り客が、年中多く訪れるが、食用に適さない種類は釣られた後に廃棄され、釣り針のかかったまま打ち上げられる種



図1 和歌山県白浜町番所崎へ打ちあがったシマウミスズメ。鳥類によってあけられた体側部(左側のみ)の穴に留意

Fig.1. *Lactoria fornasini* washed ashore at Banshozaki Point, Shirahama, wakayama Prefecture, Japan. A hole has been opened on the left side of the body by a bird.

類も発見される。フグ類がこのような例にあたる。また、複数の漁港が田辺湾や鉛山湾にはあり、南部港・田辺港はよく知られた漁港で魚類の水揚げも多い。よって、田辺湾近海で操業中の漁獲物に混獲されたものの、食用の対象とならず廃棄される個体や網からこぼれ落ちるものも多々あるだろう。たとえ食用魚(下記のリスト中で*印の種)であっても、海況の理由で網が適時に揚げられず、腐敗が多少とも進んでいれば海中に廃棄されるであろう。だが、食用魚の打ち上げは北浜では多くはなかった。

その他の特例としては、群れている魚類、例えばキビナゴが多数、潮間帯でぴちぴち跳ねているような事例に稀に遭遇した。これは打ち上げではなく、捕食者に追われるなど何らかの理由で自ら潮の引いた潮間帯へ突進したものと推察された。このような事例もリストには含めなかった。また、食用魚であってもそうでなくても打ち上げ個体が新鮮でない場合は、本記録に

は入れなかった。

本リストは過去6年間(2003年6月末日まで)の1000回を超える日々の調査に基づきまとめたもので、1綱9目12科19属27種が記録された。同定は、主として、中坊(2000)を参考にした。下記に列挙したハコフグ類(その内、クロハコフグについては報告済み:田名瀬・久保田, 2002)とフグ類のうち、イシガキフグ、ネズミフグおよびウミスズメを除き、すべての個体が掌サイズ以下の大きさであった。また、台風や時化などによる特別の事例を除いているので、打ち上げられていた各種の個体数は、一日の1回の調査あたり、ハリセンボンを除き、10個体を越えることはなかった。例えば、多数の個体が打ちあがっていた2002年12月22日には、各種の個体数は、シマウミスズメ、7;ウミスズメ、5;ハコフグ、3;ハリセンボン、2;キタマクラ、1であった。この日には、番所崎の円月島側の磯浜での打ち上げでは、上記の種類以外にヒガンフグが2個体見られた。

なお打ち上げ魚類としては稀な例として、沖合いに生息するフリソデウオ(幼魚1個体:図2)が2001年3月19日に、ハナギンチャクフグ、ハナミノカサゴおよびオオサルパなどとともに“北浜”で発見された。フリソデウオは外洋の中層にすることが多いが、オオサルパが同時にあがっていることから、外洋水塊が海岸へ接近するような現象が起こった可能性がある。

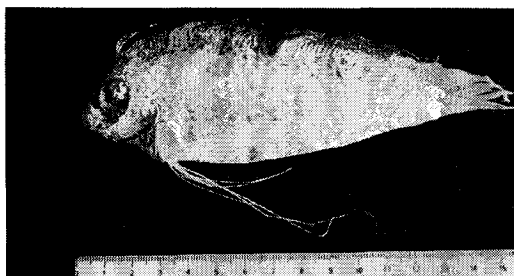


図2 和歌山県白浜町“北浜”へ打ちあがったフリソデウオの幼魚

Fig.2. A larval fish, *Desmodema polystictum*, washed ashore on "Kitahama" Beach, Shirahama, Wakayama, Japan.

和歌山県白浜町番所崎、特に“北浜”へ打ちあがった魚類のリスト[台風や大時化の時および大量凍死を除く](※食用魚)

硬骨魚綱 Osteichthyes

ウナギ目 Anguilliformes

ウツボ科 Muraenidae

トラウツボ

Muraena pardalis TEMMINCK and SCHLEGEL

*ウツボ

Gymnothorax kidako (TEMMINCK and SCHLEGEL)

ニシン目 Clupeiformes

ニシン科 Clupeidae

*キビナゴ

Spratelloides gracilis (TEMMINCK and SCHLEGEL)

アカマンボウ目 Lampridiformes

フリソデウオ科 Trachipteridae

フリソデウオ(図2)

Desmodema polystictum (OGILBY)

アシロ目 Ophidiiformes

アシロ科 Ophidiidae

イタチウオ

Brotula multibarbata TEMMINCK and SCHLEGEL

アンコウ目 Lophiiformes

イザリウオ科 Antennariidae

オオモンイザリウオ

Antennarius commersoni (LATREILLE)

トゲウオ目 Gasterosteiformes

ウミテング科 Pegasidae

ウミテング

Eurypegasus draconis (LINNAEUS)

ヨウジウオ科 Syngnathidae

タカクラタツ

Hippocampus trimaculatus LEACH

オオウミウマ

H. kelloggi JORDAN and SNYDER

ボラ目 Mugiliformes

ボラ科 Mugilidae

* ボラ *Mugil cephalus cephalus* LINNAEUS

カサゴ目 Scorpaeniformes

フサカサゴ科 Scorpaenidae

ハナミノカサゴ

Pterois volitans (LINNAEUS)

フグ目 Tetraodontiformes

ハコフグ科 Ostraciidae

ハマフグ

Tetrosomus concatenatus (BLOCH)

ウミスズメ

Lactoria diaphana (BLOCH and SCHNEIDER)

シマウミスズメ

L. fornasini (BIANCONI) (図 1)

クロハコフグ

Ostracion meleagris meleagris SHAW

ハコフグ

O. immaculatus TEMMINCK and SCHLEGEL

フグ科 Tetraodontidae

ハナキンチャクフグ

Canthigaster coronata (VAILLANT and SAUVAGE)

キタマクラ

C. rivulata (TEMMINCK and SCHLEGEL)

クサフグ

Takifugu niphobles (JORDAN and SNYDER)

ショウサイフグ *T. snyderi* (ABE)

ヒガンフグ

T. pardalis (TEMMINCK and SCHLEGEL)

ホシフグ

Arothron firmamentum (TEMMINCK and SCHLEGEL)

サザナミフグ *A. hispidus* (Linnaeus)

シロサバフグ

Lagocephalus wheeleri ABE, TABETA and

KITAHAMA

ハリセンボン科 Diodontidae

ハリセンボン

Diodon holocanthus LINNAEUS

ネズミフグ *D. hystrix* LINNAEUS

イシガキフグ

Chilomycterus reticulatus (LINNAEUS)

引用文献

ARAGA, C. and H. TANASE. 1966 : Fish stranding caused by a typhoon in the vicinity of Seto.

Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 14(2), 115 - 160.

荒賀忠一・田名瀬英朋. 1966 : 和歌山県の浅海魚類. 81-95. 和歌山県海中公園学術調査報告 (日本自然保護協会調査報告 第 27 号).

ARAGA, C. and H. TANASE. 1968 : Further record of winter fish stranding in the vicinity of Seto. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 16(3), 207 - 218.

御前 洋. 1985 : 春一番で打ち上げられた魚類について. マリンパビリオン, 14(4), 2-3.

御前 洋. 1994 : 台風で打ち上げられた魚種について. マリンパビリオン, 23(11), 2-3.

中坊徹次編. 2000 : 日本産魚類検索 全種の同定 第二版. 1748 pp. 東海大学出版会, 東京.

田名瀬英朋・樫山嘉郎. 1991 : 瀬戸臨海実験所北部海岸における 1991 年冬季の凍死魚類. 臨海・臨湖, 9, 11 - 14.

田名瀬英朋・久保田 信. 2002 : 和歌山県田辺湾から採集された稀種クロハコフグ (ハコフグ科, 魚類). 南紀生物, 44(2), 149-150.

* 京都大学瀬戸臨海実験所 (〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459) Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama 459, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan